

環境21世紀の会の事業

各種調査研究、政策の提言、行政への請願・各種申し入れ、広報活動及び講演会の実施、共通する他団体との協働・連携——を事業とし、環境との共生を考え、活動しているボランティア団体です。



環境と共生

第8号

平成14年9月15日発行 発行：環境21世紀の会 編集：総務会 有村親雄
住所 〒277-0042 柏市逆井4-9-5 TEL.04-7174-2135 FAX.04-7169-4016

環境21世紀の会会員募集

ひっばくする環境問題、生活者の側からどう捉え、どう考え、どう実行に移すかが問われています。会員を募集しています。問い合わせ、申し込みは左記総務会まで。

改善できるか、市南部のダイオキシン

平成十四年度調査結果、依然高い。松葉中のダイオキシン類

柏市の松葉中のダイオキシン類調査結果が出たが、本年は平成12年秋よりも高くなった。大気中のダイオキシン類濃度は、測定日の風向きや、風速といった気象条件などで著しく変化することから、より正確なデータを収集するため、クロマツの葉に含まれるダイオキシン類の濃度を測定したものである。結果は表の通りである。

柏市は、12年11月のデータを広報かしわ（13年3月15日号）で公表したが、今回の14年のデータを公表していない。あまり良いデータが出なかったため、公表を避けたいのではないかと思われるが公表して環境改善を実施し住み良い街づくりを期待したい。環境総合研究所の調査によれば、平成11年度のコプラナーPB値（n=190）は279 pg-TEQ/g、千葉県平均値は448 pg-TEQ/gと比較しても高いことが分る。

平成14年度ダイオキシン類調査結果

単位 pg-TEQ/g

	14年1月採取	12年11月採取
逆井エリア	5.6	3.70
南逆井エリア	6.3	7.72
増尾エリア	6.7	3.43
南増尾エリア	6.3	5.66
酒井根エリア	7.1	6.39
藤心エリア	6.6	4.20
最終処分場エリア	6.7	5.14
船戸清掃工場エリア	5.5	4.57
平均	6.4	5.10

換算すると、環境基準値である0.6pg-TEQ/m³を超える可能性がある。

近隣の流山市も異常に高いダイオキシン

平成14年3月1日の広報がれやまによると、流山市でも松葉中のダイオキシン類（コプラナーPBも含む）の調査結果がまとまった。採集時期は、平成13年10月で流山市内15地点で、四季を経過したクロマツの2年葉を人が通常呼吸する高さである地上

1.5m程度から採取した。ダイオキシン類の濃度の平均値は10.1 pg-TEQ/g、最小値は5.2 pg-TEQ/g、最大値は18.0 pg-TEQ/gであった。

流山市のリサイクル推進課によると、環境庁、平成9年度の埼玉県の調査（川越、所沢、

川口）より数値が低いという点で問題はないとコメントをしている。平成11年9月のダイオキシン対策関係協議以降、ダイオキシン類の対策が行われてきたので、松葉中のダイオキシン類は毎年減少の方向に進んでいるのに、平成9年など古いデータと比較することは、市民に正しい情報を提供していな

小生は、我が家の資源回収を約15年間担当しており、紙類、びん類、金属缶を1月に2回、ステーションまで持っていく。古紙類の中で段ボール、雑誌、雑紙の他に、新聞紙が約20%散見される。新聞販売店が新聞紙を回収するシステムが出来ているのに、何故、自治体が新聞紙を資源回収するのであるのか。これには2つの訳がある。先ず一つは、自治体が新聞紙を回収すると、資源回収量が増加して、資源化率の高い自治体といえるからである。

二つ目は原因は、町会・自治会の利権にある。自治体は、資源回収を町会・自治会に委託しており、報償金を出している。報償金は、町会・自治会の収入源の一部となっている。町会・自治会はこの報償金を当てにして、住民に販売店回収より自治体回収を奨励しているが、この回収ルートは税金の無駄使いではなからうか。

(H.K)

柏楽園町会子供会の環境体験学習

生ごみ堆肥で育ったジャガイモ掘り



ジャガイモ たくさん採れたよ!

柏楽園町会では昨年10月より、柏市の生ごみ堆肥化モデル事業として町会員の家庭生ごみで堆肥化し、近隣の農家吉田敷さんの協力を得て、完熟堆肥にしこの春初めてジャガイモを育てました。今回、町内の子供達が芋掘りをして「生ごみの力」を知り、「環境への優しい気持ち」を持つように体験学習を6月29日に増尾の吉田農場で行いました。当日は、心配していた梅雨もなく好天の恵まれ60人の児童を含む32世帯が参加しました。50坪ほどの広さのジャガイモ畑から700kgの芋を収穫、大きい物だと拳二つ分はあった。子供達は泥まみれになりながら芋掘りを楽しんでいました。ジャガイモ掘りについてのアンケートでも、①生ごみについて「関心がある97%の分別について、「できる」。「めんどくさくてもできる」を併せると98%

の回答がよせられ、十分な手応えを感じました。なお、現在使用している生ごみ処理機はバイオの力で分解、減量するタイプで1日当たり300〜500kgの生ごみを24時間で処理します。会員は24時間いつでも使用が可能です。現在50人が登録しています。7月までの延べ実績は、参加者800人、投入量200kgに達しています。柏楽園町会長 今城久光・環境部長 大橋基夫

バザ

開催日 10月27日(日) バザー一品受付日 10月26日(土)
 場所 柏楽園ふるさと会館 時間 13:00~17:00
 時間 10:00~15:00 柏楽園ふるさと会館で受け付けます。
 主催 環境21世紀の会 <連絡先> 工藤 7172-8753

わたくしの生ごみの堆肥化

私の生ごみの堆肥化作業は、長年の転勤生活が終了し、市民農園を借りた日から始まりました。新聞記事と香嶋 正忠氏の1997年発表の論文「みかん箱を使った生ごみ分解法」を参考にしました。堆肥づくりの機材と原料は下記の通りです。

1. 地中埋設型コンポスター (容量 200 リットル、エコロ社製)
2. 攪拌容器 (ステンレス製食器洗い桶と壁削り、大型しゃもじ)
3. 材料 米ぬか、油かす、乾燥鶏糞

堆肥の作り方はまず米ぬか 5kg、油かす 5kg、乾燥鶏糞 5kg と初穀またはおが屑適量を如露で給水しながら攪拌して混合させ、1週間発酵させます。発酵の程度は温度計と白微で判断します。温度計は60度以上になります。より確実にするためには、市販の堆肥を混ぜるか、竹藪か、里山の腐植土を混ぜます。またEM菌をス

プレイする方法もあります。

1度発酵の床ができれば、1kgの生ごみに、油かす 100g、米ぬか 50g、鶏糞 200g を入れ、粉砕しながら混ぜて、床に埋め込みます。4日ぐらいで発酵します。この作業を毎日繰り返します。

生ごみの堆肥化作業は、生き物の飼育です。色、香り、温度の変化に注意を払う必要があります。床の体調が不調になり、害虫が発生した場合は石灰窒素の散布が有効です。また水分が過剰になれば、生ごみの投入を休止し、初穀またはおが屑を投入して、水分を調整する必要があります。

容器が満杯になりますと、堆肥を袋詰または、遊んでいるコンポスターで2~3ヶ月保存してから使用します。3人家族の生ごみで出来る年間の堆肥量は25平方メートルの市民農園で、十分消化出来ます。

(布施新町 中藤 剛)

臭素系ダイオキシンが増加

「ダイオキシン類対策特別措置法」においては、政府は臭素系ダイオキシンにつき、人の健康に対する影響の程度、その発生過程等に関する調査研究を推進し、その結果に基づき、必要な措置を講ずるものとする」と規定されている。十分な科学的知見がないので、調査研究を推進するとされている。現在までの知見では、塩素系ダイオキシン類に比べて環境中の分解は一般に早い傾向を示すものの、毒性的にはより慎重な立場で塩素系ダイオキシン類と同等とみるべきとの見解が多い。

有機臭素系難燃剤は、高い難燃性とコストなどの理由から幅広く使用されている。難燃剤はプラスチックや合成繊維、ゴムなどの可燃性物質に添加又は反応させることにより難燃効果を与えるもので日常生活に不可欠なものであるが、環境に対する影響が心配されている。例えば、臭素系難燃剤は、4臭化ビスフェノール系、臭化ジフェニール系としてポリスチレン、ABS樹脂等に添加され、電子部品、OA機器、弱電製品、自動車部品等に使用されている。過去20~30年間で母乳に含まれる塩素系ダイオキシン類は、減少の傾向を示しているのに対し、ポリ臭化ジフェニルエーテルの臭素系ダイオキシン類は増加している事実を鑑み、その人への暴露経路の特定と制御ポイントの検討が急がれる。

生ごみ炭化処理とは

有機性廃棄物を空気の少ない状態で蒸し焼きにして熱分解し、酸素や水素などをガス化させ、炭素分の多い炭状の物質にすること。

焼却によるダイオキシン問題の解決やリサイクル推進が迫られているが、新たな処理技術として固形燃料化(RDF)、生ごみコンポスト化などと共に注目され、さまざまな装置が開発されている。有機性廃棄物の代表的リサイクル手法であるコンポスト化との違いは、処理の簡易性と処理物の利用の広汎性である。

コンポスト化の場合、利用可能な肥料を作るためには、専門の技術と手間がかかり、処理可能な廃棄物が限られる。また、完成した肥料処理物の利用の受け入れ体制や品質の問題などにより、実際の運用は難しいものとなる。

一方、炭化処理の場合は処理方法が簡単であり、処理できる廃棄物にあまり制限が無い。処理後の炭化物は幅広い利用が可能と言われており、排出者側にとっては取り組み易いリサイクル方法とされている。炭化処理後の炭化物は次のような場面で利用が考えられ、一部は実用化されている。しかし廃棄物の性状と関連して、用途開発面の研究が重要である。

- ①燃料、②土壌改良材、③水質浄化材、④湿度調整材、⑤脱臭材、⑥融雪材など。

(加藤道哉)『元気なごみ仲間の会だより』2001. 9.15より引用

編集後記

地方自治体には行政区画があり、それに基づいて市町村単位で環境管理がなされている。しかし、空気や水は、行政区画のような境界線は存在しない。今回、柏市に隣接した流山市のダイオキシン類の汚染度、手賀沼の汚れの問題をとりあげた。各市町村も自分の区域だけでなく、近隣市町村と連携した環境管理システムが望まれる。

手賀沼の汚染度

手賀沼は千葉県西北部に位置し、湖面積 6.5km²、平均水深 0.86 mである。昭和29年から43年にかけて全面積の約半分の干拓が行われた。近年は流域の都市化に伴い、日本の湖沼の中で水質汚濁(図参照)が最も進んでいる。沼が閉鎖性水域であることから富栄養化が顕在化し、夏にアオコの異常発生が起こるようになった。昭和60年以降、「湖沼法」に基づく湖沼水質保全計画を策定し、目標水質に向けて、各種浄化対策に取り組んでいるが、実効が上がっていない。

3-2-5図 指定湖沼の水質状況 (COD75%値)

資料：環境庁

